

平成30年度自己評価シート(中間評価)

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	小田 均	全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	----	-----	------------	------	------	-------	---

学校経営目標							
達成目標		本年度行動計画		評価	理由	担当部等	
1 生徒一人一人に生きる力を育む学校							
① 確かな学力を育成し、進路目標を実現できるよう支援する。							
<p>■進路目標を明確にさせるとともに、基礎・基本を定着させ、進路目標を実現できる学力を身に付けさせる。</p>		<p>ア 学年毎及び全校での進路検討会議等とおして情報を共有し、個別指導を徹底する。 イ 講師を招聘して、キャリア教育に関する講演会等を開催する。 ウ 国語、数学、英語を中心に少人数・習熟度別クラス編成の授業を実施する。 エ 計画的に宿題・課題を提供するとともに、小テストやノート点検等で個々の生徒の学習状況を確認して指導する。</p>		B	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議、推薦会議などを活用して生徒の学習状況や進路対策の進捗状況を確認している。 計画通り講演会などを開催し、進路実現への意欲を喚起している。生徒の反応は良好であった。 国語、数学、英語の授業を中心に、少人数・習熟度別クラス編成の授業を実施し、生徒の学力を伸ばすため、きめ細かい指導を行っている。 計画的に宿題・課題を提供するとともに、国数英の小テストや定期考査ごとのノート点検等を行い、個々の生徒の学習状況を確認して指導している。 	進路指導 教務 教科	
<p>■学習環境を整え、自ら学ぶ意欲と学習習慣を身に付けさせる。</p>		<p>ア 進路対策講座、夏期・冬期・春期補習、学習合宿等を実施する。 イ ICT等の教室環境を整備する。 ウ 定期考査毎に居残り学習会を行う。 エ 家庭学習時間調査を年6回実施し、課題のある生徒には個別指導を行う。</p>		B	<ul style="list-style-type: none"> 計画通り講座や補習を実施している。 特別教室のICT環境を整備した。 居残り学習会を計画どおり実施することにより、学習時間の増加につながっている。 家庭学習時間調査を計画どおり実施し、家庭学習時間がとれていない生徒に対しては、懇談や面接時に指導をしている。 	進路指導 教務 担任	
② 心と体を鍛え「誠実・自主・気魄」を涵養する。							
<p>■規範意識等を高め規律ある学校生活を確立させるとともに、教育相談等を通して生徒一人一人が安定した高校生活を確立できるよう支援する。</p>		<p>ア 月毎の全校集会で服装・頭髪検査を実施し、違反者等に対して事後指導を行う。 イ 授業規律を確立するために、年度当初に「加計高授業規律」を決めて全員で徹底する。 ウ 課題に対して早期に対応できるよう、生徒面接を充実するとともにスクールカウンセラーの活用促進を図る。 エ 学期毎に生徒連絡会議を持ち、生徒に関する情報を共有し、組織としての対応を強化する。</p>		A	<ul style="list-style-type: none"> 毎週、週初めに生徒会執行部が中心となって自主運営の生徒集会を行い、生徒の自治力を高めている。 毎月1回、全校集会で服装・頭髪検査を行い、身だしなみに対する意識啓発を行っている。 授業規律を確立するため、年度当初に「加計高授業規律」を決定し、教室掲示するとともに継続的な指導を行っている。 「加計高授業規律」に基づき、挨拶の徹底を図っている。 生徒指導部が中心となり、教員間の情報交換・連携を密にし、組織的な対応を常に意識して行っている。 	生徒指導 教務 担任	

<p>■部活動や生徒会活動等の活性化を図り、集団の中で責任ある行動をとる態度を育成する。</p>	<p>ア 生徒会執行部や各部部員による新入生や中学生に対する啓発活動を強化する。 イ 主な生徒会行事毎に事後アンケートを実施し、次年度の改善点を整理する。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が中心となり、生徒が主体的に行事等での企画・立案・運営を行っている。 ・中学生との集団宿泊研修の中で、加計高の取組や魅力について、生徒自らが積極的にPRを行った。 ・月1回の定例委員会を開き、活動内容や行事ごとの課題の意見交換を行い、改善点の整理を行っている。 	<p>生徒指導</p>
<p>■体力の向上を図り、健康を維持し、気魄を涵養する。</p>	<p>ア 体育の授業で補強運動を行う。 イ 体育の授業全体での運動量を増やす。 ウ 体育の授業で柔軟性を向上させるためのストレッチを行う。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に筋力トレーニングを行い、体力向上を行っている。 ・運動を楽しみながら行えるよう、2人組やゲーム的な要素を取り入れ、意欲的に取り組めるよう工夫を行っている。 ・体力テスト結果を活用し、個々の生徒の意識向上を図っている。 	<p>保健体育</p>

③ 国際的視野を広げ、コミュニケーション能力を身に付けさせる。

<p>■海外の姉妹校等との国際交流活動に積極的に取り組み、様々な価値観を知り、自己と他者とをともに大切にする力を育成する。</p>	<p>ア 海外の姉妹校等との国際交流活動を積極的に実施する。 イ 本校及び地域のよさを海外に情報発信する。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に米国ハワイ州のホノカア高校の生徒3名、引率教諭1名が来校し、互いの文化等について紹介するなど、交流を深めた。また、8月には本校から2名の生徒がホノカア高校に短期留学をし、安芸太田町や加計高校のことを紹介した。 ・7月には、ベトナムからの入学生を受け入れることができた。 ・11月には、韓国の姉妹校からの訪問団を受け入れる予定である。 	<p>教務</p>
---	---	----------	--	-----------

【評価結果の分析】

- ・生徒の進路実現に向けて、コンスタントに情報共有を図り、学習状況に即応した指導が実施できている。一方、模試結果等の客観的データの分析や指導内容の改善については検討を要すると考える。
- ・個々の生徒の進路実現を図るため、学習習慣を身に付けさせる指導を継続するとともに、これまでの個別指導を、より一層充実させる必要がある。

【今後の改善方策】

- ・生徒の進路実現のため、模試成績の分析に基づく指導方法の検討を行い、一層生徒個々の状況把握と指導の改善を行っていきたい。
- ・家庭学習時間調査等をもとに、計画的な課題等で個別指導をしっかり行う。

<p>2 保護者・地域から信頼される学校</p>				
<p>① 教職員の指導力や職務遂行能力の向上を図る。</p>				
<p>■「授業づくり」等を進め、指導力の向上を図る。</p>	<p>ア 各学期に、シラバスに基づいた説明を行う。 イ 外部講師を招聘しての授業づくり研修及び公開授業等を年複数回実施する。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めと必要に応じた時機にそれぞれの授業者から生徒にシラバスに基づいた説明を行っている。 ・8月に、「協働型 教育フォーラム」を開催し、研修を行った。 	<p>教務</p>
<p>② 教職員の不祥事防止、業務改善を図る。</p>				
<p>■教職員の不祥事防止意識を高揚し、不祥事ゼロを継続するとともに、業務の効率化等により生徒と向き合う時間を増やす。</p>	<p>ア 服務規律に係る全体研修を企画・実施する。 イ 「不祥事防止チェックリスト」を活用した面談を年2回実施する。 ウ 働き方や業務改善に関する研修会を企画・実施する。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の職員朝礼なかで折に触れ、不祥事防止や服務に関して情報共有を行った。 ・面談を2回実施した。 ・今後、働き方を含め業務改善につながる業務の見直しを行う。 	<p>全職員</p>

【評価結果の分析】

- ・新学習指導要領に基づいた、授業づくりについて研修を行った。
- ・日常的に不祥事防止や服務に関して、情報共有を図っている。

【今後の改善方策】

- ・授業観察等計画し、生徒の主体的で深い学びを促す授業展開となるよう授業改善を図る。
- ・業務の見直しを行い、さらなる業務改善を図る。

3 地域とともに歩む学校				
① 地域と連携し、開かれた学校づくりを推進する。				
■保・幼・小・中・高・大連携を推進し、地域の人材育成に貢献する	ア 地元中学校とは学期に3回以上、近隣中学校とは学期に1回以上連携を行う。 イ 子ども園及び小学校との連携を強化する。	A	地元の中学校3年生との合同宿泊研修、進路説明会、体育祭など学校行事、本校卒業生の派遣、保育実習、大学等のオープンキャンパス参加、大学祭への協力、芸北分校・千代田高校との三校連携等保・幼・小・高・大連携を進めている。	教務管理職
■積極的に広報活動を行い、学校の魅力を発信し、地域内外の生徒・保護者にとって「行きたい学校」「行かせたい学校」となる。	ア 学校の魅力づくりに生徒自らが主体的に加わる。 イ 広報誌「五輪の峰」を毎月作成し発行する。 ウ ホームページを常に更新し、新しい情報を発信する。 エ マスコミに積極的に情報提供し、取材を働きかける。	A	・「五輪の峰」を各学期末に発行し、近隣の小中学校、関係機関及び安芸太田町内全戸に配布している。 ・地域の広報誌「あきおおた」に加計高校の記事を提供し、情報発信を行っている。 ・今年度も、ホームページをリニューアルし、より閲覧しやすいレイアウトにした。頻繁に更新し、常に新しい情報を発信している。	教務各部管理職
② 地域の「もの・ひと・こと」に学び、地域の発展に寄与する。				
■外部指導者を招聘するなどして地域の教育力を生かした学校教育を展開するとともに、ボランティア活動等を通して積極的な地域貢献を行っている。	ア 総合的な学習の時間や学校設定科目等の授業に、外部講師を招聘する。 イ 学校行事等に地域の人材を招聘する。 ウ 生徒会活動の一環として、地域行事への参加や環境美化等のボランティア活動を推進する。 エ 専門コースの学習の一環として、子どもや高齢者を対象とするボランティア活動を推進する。	A	・総合的な学習の時間や学校設定科目等の学習において、外部講師を招聘し、専門的な指導をしてもらい、生徒に実習を通して学ばせたり、知識を深めさせたりしている。 ・地域の指導者に来校していただき、ゲートボールや探究活動の指導を受け、学校とは異なる新たな視点を得るとともに地域への関心を高めることができた。	教務生徒指導教科

【評価結果の分析】

- ・地域等と連携し、開かれた学校づくりを推進している。
- ・地域の人材に恵まれ、外部指導者として本校の総合的な学習の時間や学校設定科目の授業に招聘し、学びの質を高めていただいている。

【今後の改善方策】

- ・ホームページを中心に、「五輪の峰」や「あきおおた」の加計高校の記事を充実させ、さらに情報発信を行っていく。

平成30年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	小田 均	全・定・通	本・分
----	----	-----	------------	------	------	-------	-----

1 評価結果の分析

(1)生徒一人一人に生きる力を育む学校

- ・生徒の進路実現に向けて、コンスタントに情報共有を図り、学習状況に即応した指導が実施できている。一方、模試結果等の客観的データの分析や指導内容の改善については検討を要すると考える。
- ・個々の生徒の進路実現を図るため、学習習慣を身に付けさせる指導を継続するとともに、これまでの個別指導を、より一層充実させる必要がある。

(2)保護者・地域から信頼される学校

- ・新学習指導要領に基づいた、授業づくりについて研修を行った。
- ・日常的に不祥事防止やサービスに関して、情報共有を図っている。

(3)地域とともに歩む学校

- ・地域等と連携し、開かれた学校づくりを推進している。
- ・地域の人材に恵まれ、外部指導者として本校の総合的な学習の時間や学校設定科目の授業に招聘し、学びの質を高めていただいている。

2 今後の改善方策

(1)生徒一人一人に生きる力を育む学校

- ・生徒の進路実現のため、模試成績の分析に基づく指導方法の検討を行い、一層生徒個々の状況把握と指導の改善を行っていきたい。
- ・家庭学習時間調査等をもとに、計画的な課題等で個別指導をしっかりと行う。

(2)保護者・地域から信頼される学校

- ・授業観察等計画し、生徒の主体的で深い学びを促す授業展開となるよう授業改善を図る。
- ・業務の見直しを行い、さらなる業務改善を図る。

(3)地域とともに歩む学校

- ・ホームページを中心に、「五輪の峰」や「あきおおた」の加計高校の記事を充実させ、さらに情報発信を行っていく。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- ・生徒の進路実現のため、全教職員で連携を図りながら、バランスよく指導していく。
- ・協調学習を基盤とした授業づくりを進めていく。

平成 30 年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成 30 年 10 月 31 日

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	小田 均	全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	----	-----	------------	------	------	-------	---

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	達成したイメージを持ちやすい。明確な展望ある目標であり、そのための指標、計画の設定に連動して、目標達成のための取組を全教職員で共通のイメージを持つことができる。 計画についても具体的で取り組みやすいと考える。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	自己評価結果から 11 項目中 7 項目が A, 4 項目が B となっているので、進捗状況が適正である。「進路実現」 「学ぶ意欲・学習環境」、「授業づくり」について B であるが、地道な取組を重ねているので、さらなるレベルアップが期待できる。
目標達成に向けた取組の適切さ	B	学力向上、進路目標の実現、規範意識の確立、国際交流、学校の魅力発信、ボランティア活動等の取組は適切で、効果的である。 ベトナムから生徒を受け入れ、さらに国際交流が発展することを期待します。 授業づくりをさらに進めてもらいたい。 各種イベントへのボランティア参加は素晴らしい。生徒の明るい表情に達成感を感じ取れる。
評価結果の分析の適切さ	A	評価結果の分析は、生徒や学校の状況と合致しており、概ね適切である。
今後の改善方策の適切さ	B	学力向上及び進路実現については、引き続き継続した取組をお願いしたい。 地域貢献活動については、これまでの取組成果を生かしてもらいたい。 安芸太田町の小中学校で推進している協調学習を高校で発展させた形で取り組んでももらいたい。 もう一歩踏み込んで、具体的な方策を掲げる必要がある。
総合評価	A	校長の掲げた教育目標とめざす生徒像に、今の加計高校生が自らの目標として進んでいこうとしている。それを支える教職員の組織力の高さを感じることができる。 進路実現を含め、今年度の後半の取組と成果を期待する。 高校こそ個別タブレットを準備するなど、あらゆる教科で活用できるよう I C T 機器の整備が望まれる。県としての予算措置を期待する。